

時事新報定價
時事新報へ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價遞
送料廣告料ヘ左ノ如シ
一枚二錢〇一萬月滿金五十錢〇三萬月滿金一圓五十錢〇六萬月滿金三
圓〇四年前金六圓
○時事新報社モ直譯ニ開闢ニテ讀者スルモノハ取リ右定價ノ外ニ
前金八錢にして地方に郵送する分は此外に貼用する郵便印紙の代價を申受く可し

一 行 一 付	一 行 五 字 廿 四 字	一 日 限	二 日 以上	七 日 以上
十 二 錢	十一 錢	十 錢五 厘	六 日 迄	十 錢五 厘

月曜日并に大祭祝日の翌日等他新聞紙の休刊日に限り時事新報配達の求めに應ず此場合には新報代價一箇月前金八錢にして地方に郵送する分は此外に貼用する郵便印紙の代價を申受く可し

時事新報

現政府の政略に付ては我輩は實に政治上に於て同憲し難さもの少なからざるのみあらず經世上の事に於ては更に一層心を痛ましむる所なれば之を釐革して富強ある日本國に變せんとするは平生の願なれども左ればとて直ちに之を國會に托せんとするものに非ず暫く之を永遠の計畫として第向き國會に對する所望は前號にも陳べたる通り政府攻撃的の論法を事として快を一時に取るの下策を學ぶふと勿れど云ふにありて一片の憂衷他念を挿せざるは讀者に於ても定めて許す所ならん體會の一舉一動國家の利害に關するみど固より大なりと雖も公けの利害論は姑く擱さ單々議員その人の品位に就て云ふも自から顧みる所なる可らず言行着質にして温りに事を好まず假令へ政府に多少の瑕理あるも能く之を容れて其運動を自由ならしむると同時に民間の實利害に至りては守る處を守りて寸步を退けず針の刺し時どしては輕卒に内閣の信任如何を投票し又時どしては委員の選舉に黨派の争を以てして時日を空うし却て實際の大利害を忘るも如きは國會議員の品格に於たる議員の事にして自から身の重きを成す可しと雖も角も其外形外聞に於て苟も粗暴の跡あらんには輿論の後援を得るふと難かる可し國會の勢力は三百議員の勢力を非ずして單に輿論の後援に依頼するものなるに天下の識者君子の流は議員の聲動を厭んで竊に之に背くとありては全體の不利のみならず外國人の如きは兼て日本の國會に付さ多少の疑を抱きたるみどなれば其不思議より出づるものあり曰く大同派曰く國機黨その中には黨派政紀などと稱して既に政治の意見を公示したるものあり何れも簡潔ある文字にして是非の評論は容易に下し難しと雖も大意に於て美ならざるものなし然方にて若々歩を進めて黨勢を張り其大意をして實ならしめんとするには國會開場後に於ける一議一論み

れと苟もす可からず漫然たる學說を述して體面を裝ひ又は壯快ある激論を唱へて人氣を買はんとするが如き都て我輩の取らざる所あり要は實利を保護して人民を幸福の境界に導く者のみを往く至大的勢力を占むべきなれば今日の希望を永く持續して其實現するを求むには唯次第に進歩すべき擴張手段を講ずるの外かかるべし俄に取急ぎて功を一舉に奏せんと欲するも決して叶ふ可き事柄に非ずして其事成らすして頗くときは他に功を奪はるゝふとなきを期す可からず且つ黨派も亦議會全體と齊しく議論の模様に由り大に其品位を落して體面を損するを免れず品位の下落は黨勢の衰替となり無上の不利なれば我輩は國の安否利害が從來の政治界に於ける政談家の論鋒と大に其趣を稽へ又これを議會及び黨派の品位勢力に徹し議員諸氏が從來の度量の寛大ならえふとを祈る者なり

月曜漫筆 英國家風記 潤亭居士

第二回大火紀念碑上より倫敦府を望む

倫敦は天下の大都なり東西十四英里、南北八英里、地積百二十英方里戸數は七十五萬戸、人口は四百七十萬、

方平坦に打ち開き往昔羅馬渡來の前より既にアリト

ン人の部落あり次第に繁昌して今の大都會を成し

たるみるとあれば一萬四千五百の町數、横斜屈曲に入り亂れて街の幅員も割合に狭く府の中央東部ある商業中

心場の周邊は往來の群集甚しく肩摩轍擊など申す言葉

にして形容す可きに非ず此群集の中に入りて其人壁を穿

ち去るばバナマ運河を掘り抜くの難さにも喻ふべく地

下の鐵道は人家の底をノタクリ廻はり地上の鐵道は其

上を走り屋上の鐵道は又その上を駆け廻はる左れば府

内の混雜なる處には一英里四方に三百餘英里的線路あり

車は一年中に合計千六百萬里を走りて凡そ五千萬の人

數を乗せキヤブと稱する二輪の馬車は其數一萬二千輛

仕掛なる哉倫敦府、准事居士は入府以來既に兩三日を

経るまことに獨り自から地圖を案して日本の公使館、領事館等を訪ひたれども折々方角を間違ひて不經濟と知

りつゝも例のキヤブの御厄介と爲るみと多く甚藍の目

男は英國富豪家の子あれども年少遊蕩の癖ありてシミ

ト商業に身を入れざるにぞあるストローリース氏は心

を懐めて其子を友人某氏に托し身持の全く治まるまで夫れは何よりの仕合せなりとて兼ねて約したる時刻より同氏の事務所に赴きたり抑も此事務所が二十二所に集まつて電話機を掛けたり金鎖を持ち運んだりするに大さう都合が好いのです

居士「さやう商賣の中心は事務局ばかりにして家内眷族を住ませぬやうにしあければあらぬ日本でも市區改正をする者は此考を持たなければなります

スリードース「茲はアエンチャーナと云ふ處ではれから日本領事館のあるビショップスグート夫れから

賣人の家族が住んで居て銀行の合壁から飯を焚くに仕合がりますが此邊ではコンナ大きな家を幾個

は御坐いません夫れだから事務局が二十二所に集まつて電話機を掛けたり金鎖を持ち運んだりするに大さう都合が好いのです

居士「夫れなら御案内を願ひませう」と云へばスリードース打首肯きて又ブランチーを一杯

飲みプラッシュを取り出して外套の底を握り筒袖の先さ

て紺帽子を二三度撫で居士が低き帽子を被るを見て

「あなたは高いのをお買ひなさい」ワエンツルマンの位

ハハハ

が下がりますと左襟なら參りませう」と先きに立ちて街道に出で人込の中を潛り抜けて行くと五六町にして逢か向に一大橋あるは是なん名にし逢ふ倫敦橋あり

て英語史を讀んで千六百六十六年九月倫敦に大火あり

三日三夜火滅せし寺院八十九、人家一萬三千を延焼し

て光燭四十英里外に達せり云々條をカスカに記憶し

たりが今此大火紀念碑の前に來りて忽ち歴史上の事

實に思ひ當り「彼の大火は倫敦橋近邊の炮包屋から起

つゝので紀念碑、ア高いものだ

たゞイ何に二百

居士は頗りに感

じき歸り感

の處に廻り歸

り入りス

トロース

ア高いものだ

しき場合にも確の勘定を忘れるは是れぞ英國人の持

前にして亡父の遺言書開きに立ち合ひ遺産の福分けに

あり附かんと烟草賣捌の用事を兼ね悲喜相半ばして

故郷に歸れば豈に圖らんや遺言書中には別に遺產の條

を載せず實子ストローリースは其失職大方ならず

誰此以上母氏に事へて程よく其機嫌を取り斯くて其遺

産を得るより外なく折も折と煙草の荷物も其貢口の

狹くして一時に片附く可きに非ず恐るも一昨年の秋の

頃より今まで倫敦に滞在するなれ居士はフリした因縁

が從來の政治界に於ける政談家の論鋒と大に其趣を

稽へ又これを議會及び黨派の品位勢力に徹し議員諸氏

が從來の度量の寛大ならえふとを祈る者なり

誰此以上母氏に事へて程よく其機嫌を取り斯